

2019年 東京外国語大学（前期日程）【英語】 解答速報

2019年2月25日施行

1 長文論述問題

1.

【解答例1】

日の出とほぼ同時に目覚め、日没後まもなく眠りにつき、年間を通しては収穫のない冬により長く、収穫期にはより短く眠って、適宜昼寝をとるという睡眠の取り方。(75字)

【解答例2】

およそ日の出と共に目覚め、日没後程なくして眠りにつく。また、実入りの少ない冬の間は多く眠り、収穫時には少なく眠る。さらに、仮眠によって毎日の中で区切りをつける。(80字)

【解答例3】

夜と昼、季節の変化のリズムに合わせて、日の出とともに起き、日没とともに寝て、農閑期の冬には睡眠を十分にとり、収穫期には減らし、昼寝をときおりはさむという方法。(79字)

2.

【解答例1】

睡眠が不足する程長く労働者を働かせようとする経営者側と睡眠の標準化によって十分な量を確保したい労働者側との、適正な睡眠時間をめぐる駆け引き。(70字)

【解答例2】

雇用者側は、労働者の時間をあまりに多く要求し適切な睡眠時間を奪い、労働者側は、睡眠のためのみに保持される標準化された睡眠時間を要求したこと。(70字)

【解答例3】

雇用者が労働者に過度の労働を強いて睡眠が十分に取れない時には、労働者が適切な標準的睡眠時間を要求するという経営者と労働者の駆け引きのこと。(70字)

3.

【解答例1】

睡眠が、実験的に観察、操作、矯正され得る医学的な問題として理解されること。(37字)

【解答例2】

睡眠を、経験的に観察し操作し是正することが可能な医学的問題として理解すること。(39字)

【解答例3】

睡眠を、実証的に観察し、手を加えて、修正できる医学的問題として理解すること。(38字)

4.

【解答例1】

夜更かしが誘発されて就寝時間が遅くなることにより、それまで二回に分割されていた夜の眠りが一回にまとめられるようになった。(60字)

【解答例2】

昼と夜の境界線をずらし、それによって人々は夜更かしするように導かれ、二つの睡眠を区分する間隙が失われて一つになった。(58字)。

5.

【解答例1】

親またはその他の保護者が子供と夜を通してずっと別々の空間で眠るようになったこと。(40字)

【解答例2】

両親や成人した保護者と子供たちが、夜の間ずっと異なる空間で過ごすようになったこと。(40字)

【解答例3】

夜の間ずっと、子供たちが親や世話をする大人たちと別の部屋で寝るようになったこと。(40字)

6.

【解答例】

ヨーロッパ人は私的空間で全ての睡眠をとる経済的な余裕がない者が野蛮であると定義され、非ヨーロッパ人は私的空間で眠るという社会規範を持たない者がそう定義された。(79字)

2 長文空所(単語)補充(語形変化あり)

- ① like ② drawn (過去分詞) ③ said (過去形) ④ hear ⑤ reduced (過去分詞)
⑥ expect ⑦ consist ⑧ get ⑨ Think (大文字で始める) ⑩ reinforced (過去分詞)

3 長文空所(欠文)補充

- ① A ② F ③ E ④ D ⑤ B ⑥ C ⑦ H ⑧ G

- 4 リスニング：省略 5 リスニング：省略 6 リスニング+英作文：省略

《講評》

全体として、昨年度の出題形式・傾向から大きく変わったところはありません。読解部分では、大問①が「長文の内容説明・論述問題」、大問②が「単語レベルの空所補充問題」、大問③が「センテンス(またはその一部)の欠如を補う欠文補充問題」です。

①の内容説明問題は、小問が6問で、難度や形式、書く分量においても大きな変化はありませんでした。例年通り、大学受験レベルの語彙・構文・文法をしっかりと身につけておくことが正解への最低条件です。加えて、英文全体のテーマを理解し、論旨展開を追うための思考力が肝要で、ある程度の背景知識があることも役立ちます。本年度も狭い文脈(ミクロコンテキスト=問われた下線部の前後)の範囲で解答できる問題が中心でしたので、該当する箇所は比較的に見つけ易かったと思われませんが、理解した内容を字数制限内での確かな日本語で表現する能力がないと合格答案作成は困難です。設問の要求に的確に対応して答えることも必要です。英語の学習に加えて、伝えたい内容を過不足のない、分かり易い日本語で表現するための訓練が不可欠です

②の空所補充は、11語の単語群から10カ所の空所を補充する問題です。難易度・形式ともに昨年から大きな変化はありませんでした。この問題の従来の特徴も例年通りでした。

- ① 選択肢の単語群が大学入試としては基本的な動詞が中心である。
- ② 「必要があれば適切な形に変えて…」という指示がある。
- ③ 近年の語形変化は以下のパターンにほぼ集中している。
 - i 「動詞を現在分詞、過去分詞、あるいは動名詞に変える」
 - ii 「動詞の時制を変化させる」
 - iii 「動詞に三人称単数現在のSをつける」

今年度の語形変化は過去分詞が多くなっていますが、意図的なものというより偶然の要素が大きいです。正確な文法的判断力を身につけるとともに、「文頭は大文字で始める」といった忘れがちな変化にも注意が必要です。今後、上記の出題傾向を絶対視するのは危険ですが、このパターンを意識して学習することは有効な対策となる可能性が高いでしょう。

③の欠文補充は、9個の選択肢から8カ所の欠如箇所を埋める問題で、これも例年通りです。主に語彙・語法の知識を活用する大問②に比べて、③は全体的な大きな文脈と直前・直後の近い文脈の両方をバランスよく把握することが必要といえます。そのため例年いくつか迷う選択肢がありますが、一度選んだ選択肢を固定化せず、問題を解き進む過程で試行錯誤しながら最適なものに変えていく柔軟性が重要です。冷静かつ論理的にしっかりと

文脈を追うことを心掛ければ、解答の根拠を必ず見つけることができます。解答後にページ全体に目を通して、論理的かつ自然な文章の流れになっているかどうかをチェックすることが正解率を高めるのに重要です。

④と⑤は例年通りリスニング問題です。一昨年度、④がメモの空欄を埋める単語や数字を書かせる記述式の出題でしたが、昨年と今年は2年連続で④、⑤共にマルチプルチョイス問題（3択）に戻っています。近年はずっと「放送1回のみ」が続いていましたが、今年は⑤が久しぶりに「2回」聞く問題となりました。難度に差をつけた、1回放送と2回放送の出題が定着するかどうかは、まだ判断できないところです。

⑥は7年連続で「リスニングと英作文の融合問題」です。これまでと同様、放送を2回聞いて、

- 1) 放送内容の要約を英語で書く問題
- 2) 放送内容に関する質問に対して自分の意見を英語で書く問題

の2つが出題されましたが、今年は1)で与えられる参考資料に変化がありました。これまで資料は「メモ書き・図表など」でしたが、今年は「英語の簡単な見出しがついた数枚の写真」になっています。ただし、「リスニングの内容について、ヒントを参照しながら英語で要約する」問われている本質的な能力は変わりません。およそ、50分前後で、各問200語程度（計400語程度）のライティングが求められますので、リスニング力の強化とともに一定の時間内にこの語数を書くための十分な準備と訓練が必要です。短期間で対策は困難で、中長期的・日常的な学習が望まれます。

トフルゼミナール